

潮寿荘だより



サトウセツコ

平成28年7月13日発行
発行：特別養護老人ホーム 潮 寿 荘
記事：7月担当潮寿荘職員
編集：潮寿荘だより編集委員
題字：佐藤節子(82歳)

日帰り温泉旅行

6月21日、日帰り温泉旅行に行ってきました。まずは「函館牛乳あいす118」でソフトクリーム！車で待っている入居者さんたちにアイスを配ってから職員も食べました。味はどうですか？と聞きに行くと明子さんキヨ(宮)さんの手にはもうアイスがありません。「おいしかった♡もう食べたよ」と満面の笑顔。他の方もこぼさないよう上手に召し上がっていました。そして湯の川温泉の某ホテルへ。ホテルの温泉は、とても広くキヨ(成)さん、つやさんなど歩く方は好きな湯船4〜5カ所を廻っていました。久子さんは以前何度もここに来ていたようで「その大浴場が一番良い温度だから、いつもそこに入っていたのよ」と教えて



くれました。他の湯船にもゆっくり浸って、心から上がると「家でもこんなにゆっくり浸かった事ない」と喜ばれておりました。キヨ(宮)さんはジャグジー風呂で足を組んで座って踵を一生懸命こすり、キヨ(成)さんは洗顔フォームの横にある容器を見て「これ何なの？」と興味津々に角質を取るクリームを付け、ポロポロと角質を落としていました。私は



という、みなさんの楽しそうな姿を見て嬉しくて浮かれていたのか、幸子さんの髪をボディソープで洗ってしまい「まりなちゃん、それボディソープだよ」と言われ、初めて気づき慌てて洗い直しました。さて、入浴待ちの入居者と留守番をしていた内村介護士。例年なら職員が2〜3名いて退屈しないよう工夫するのですが、レク活動が上手な内村さんなら大丈夫と言われ一人で任されました。内村介護士、何をしようかと歌を歌ってみてから15分経過。「どうしよう、声が出ない」と時計を見ると、まだ残り1時間15分：これ以上どうしたら良いんだ、と途方に暮れていると施設長が温泉から上がった入居者を連れて戻ってきました。ゆっくり入ってきたので、みんなハアハアと疲れており歌どころではなさそうだったのでレクは中断。ホッとした内村介護士なのでした。みんながお風呂から戻って一息ついたら昼食です。さださんは刺身の

わさびをそのままの中へ。職員が気付いた時にはもう遅く、真っ赤な顔。出した方が良いでしょう、と言う職員の声に聞く耳もたず、そのまま飲み込みました。着いてすぐお腹の調子が悪くなったミサヲさん。食事前には施設長にご飯を全部あげると言っていたのですが配膳するとたちまちご飯以外は空に。しかも力二の爪付きの揚げ物を噛まずに丸ごと食べてしまいノド詰まり。すぐに取り出したので大事には至らず、息を吹き返したミサヲさんの第一声は「あくノド詰まるとこだった」と。いや、詰まってきましたよ、とみんな大笑い。そんなやりとりを見て、まだ力二の爪を食べていない人たちは食べるのやめようかな、と職員にあげている人もいました。食べた後はお土産屋で買い物。各々自分用のお菓子や家族へのお土産を買っていました。そんな中キヨ(宮)さんは「寿司の磁石」を買いました。確かに美味しそうですがいったい何に使うのでしょうか？キヨ(宮)さんに聞いても「うん、いいんだ」と言っていて大事そうに眺め車いすのポケットへ……。(4年ぶりの自転車中央図書館へ。翌日お尻が痛い介護士・鈴木)



アニマル交流会

だんだんと暑くなってきました。皆さんはどうお過ごしでしょうか。

6月30日、木曜日。今年も戸井幼稚園の園児の皆さんとアニマル交流会を行いました。トロピカルフィッシュ

ユ岩松さんのご協力をいただき、手のひらサイズの小さいカメさんから、大人の顔の倍はあるうサイズのカメさん。トカゲやウーパー、ルーパーを連れてきて、動物たちとふれあう機会をつくってくれました。カメ



おそろおそろトカゲをなぞる昭男さん

三度目の縁

皆さんこんにちは。潮寿荘で働きの一年が過ぎようとしている沖本です。今回は智子さんと私のご縁について書きます。

今から28年前。高校生の私はお肉屋さんでアルバイトをしていました。その頃、コーヒーやお菓子をいつも私にごちそうしてくれた隣の店のおばさんが、智子さんでした。バイトを辞めた後はお会いする機会はなく、それっきりでしたが、再会は20年後に突然やってきました。私が勤めていた病院に患者さんとして来られた

トカゲを入居者さんにも触ってもらおうと連れて行くと、最初は顔を背けながらも手に取ったり、なでたりするうちに「めんこいもんだねえ」と愛おしそうにする方が多くて驚きました。動物たちを見せてくれたお礼にと、園児の皆さんが歌や手遊びを披露してくれました。これには入居者の皆さんの顔がゆるみっぱなし。お別れに園児の皆さんが、入居者ひとりひとりに握手をした際、ナツさんが「いい子だ。また、おいでや。」と声をかけながら感極まったのか「涙でてる」と、泣いてしまいました。動物たちと接するのは、患者さんと介護士として暫く過ごした後、智子さんは退院されていきました。そしてさらに7年近い月日が流れ、私が潮寿荘に就職すると、入居者のなかに智子さんが居たのです。3度目の再会に運命を感じました。智子さんが私を覚えていて下さってるかは解りませんが、自分にとって智子さんは特別な存在です。笑顔をみせてもらうと、とても癒されます。何回も体調を崩されているのですが、少しでも元気になって長生きしてほしいと願っています。(コンビニでコーヒーを飲むのがささやかな楽しみケアマネ・沖本)

と園児たちの小さな手のぬくもりを感じる事ができた楽しい交流会でした。(入居者への挨拶がドラえもん、甚平着たらバカボンな事務員・亀田)



5月25日、6月26日と2回続けて『昼間想定火災避難誘導訓練』が行われました。6月の訓練では入居者さんには予告せず、いつも通りくつろいでいらつしやるところに、ウウウという突然鳴り響くサイレン(実は内村介護士の声)と避難訓練の放送に皆さんビックリ。ホールに居る方々は驚きながらも『訓練』の言葉に少し安心した様子でした。テレビに集中して音に気付かなかった義丸さんは周りの方々が廊下に向かうのを見て不思議そうだったので「避難訓練の火事ですよ」と伝えると「ああー」といつもより早く車いすを走らせ避難路へ向かわれました。他にもどちらに向かったらいいのか戸惑っている方や、何が起きているのかしら、とぼかんとしている方もいらつしやいました。普段から周りの方々に気をかけて下さる幸子さんやハルさんが、良く通る声で周りの方へ声をかけ誘導の手伝いをして下さっていました。

皆さんは普段からちよ子さんの事を気にかけており、まだ避難していない事が心配だったようです。「この人も早く！ちゃんと連れて行ってあげてよ」と職員へ訴え、車いすに移ったちよ子さんを見てホッとしましたようにご自分も避難されました。震度6弱の地震があったり、土砂崩れ避難準備注意報が出たり、大事にはならないものの、最近恐怖を感じる事が何回かあり災害はいつ起きるかわからないとつくづく実感しています。火災だけでなく、これから色々な災害を想定した訓練をして入居者さんを守っていきたくと思います。

8月予定

- 3日 誕生会
- 7日 野外食(流しラーメン)
- 10日 墓参り
特別喫茶
(スイーツバイキング)
(アイス・白玉・お餅
かき氷・果物など)
- 22日 野外食
(流しそうめん)

ご寄付ありがとうございます
ごさいます 小向厚子様

夏祭り
お知らせ

7月30日(土)
18:30~20:00

今年は屋内で
やりますが花火
もあげます!
花火19:40頃~
お楽しみに!

(七夕の短冊は介護福祉士合格、三度目の正直になるか介護士・宇美)